

## 小規模分団統廃合及び定数の見直しについて

### 1 地域における人口減少の状況

#### (1) 北播磨地域における加東市の状況

人口減少や高齢化の状況を北播磨地域の近隣市町と比較すると、西脇市、小野市、加西市、三木市、加東市、多可町の6団体のうち、小野市と加東市は、10年前との比較で人口を98%以上維持しており、少子高齢化の状況も、良好な状況を示している、他の4団体に比較すると、人口減少や高齢化が深刻化していないように見受けられます。

※ 資料P1～P2参照

#### (2) 加東市内で生じている地域間の格差拡大

近隣他団体との比較では、一見して人口減少や高齢化が深刻化していないように見える加東市ですが、市内の自治会単位で人口減少や、高齢化の状況を比較すると、飛躍的に人口が増加し、高齢化率が低い地区もあれば、一方で合併により加東市が誕生した時点から人口が80%を下回っている地区や、地区内人口に対して65歳以上の人の割合が35%を超え高齢化が進んでいる地区があります。

加東市内においても深刻な人口減少と少子高齢化が進んでおり、自治会単位ではその状況に大きな格差が生じているため、自治会を母体とする自衛消防団の組織維持に大きな悪影響を与え、地域で生じた格差ゆえに問題を市全体のこととして認識しにくくなっています。

加東市内で消防団員の確保が困難になる状況は、生徒児童の減少の次にやってくる、人口減少・少子高齢化の初期症状と捉える必要があります。

※ 資料P3～P5参照 P3からの一覧表で赤く着色した数値は、深刻な数値、青く着色した数値は健全（比較的状況が軽い）な数値を相対的に着色しています。青く着色していれば安心という訳ではありません。

### 2 市内での自衛消防団組織化の状況

#### (1) 自衛消防団を組織していない自治会と共同で消防団と設置している自治会

市内には、自治会が99団体ありますが、その内72団体が単独で自衛消防団を組織しており、9団体の自治会が共同で自衛消防団を組織しています。

一方で、残りの18の自治会には自衛消防団が組織されていませんが、多くは公営住宅や別荘地を単位とする自治会であるものの、中には「ひろのが丘」、「藤田南」、「南山」など土地区画整理事業によって開発された住宅団地でも組織化されていない自治会があります。

加東市内では、消防署による常備消防の体制が整っているとはいうものの、都市部に

比べるとその体制は十分といえず、非常備消防団を組織しない地域の消防力は極めて脆弱であるといわざるを得ません。

また、昨年制定された「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」は、消防団を消火活動だけでなく、あらゆる災害対応の中核と捉えているため、地域の総合的な防災力を強化するためにも自衛消防団の組織化が求められていくことが予想されます。

この様な場合を想定し、「ひろのが丘」を例に検討すると、新たに単独で自衛消防団を組織するよりも、隣接する社1～5区の自治会と共同で組織を運営する選択の可能性が高まります。

すでに、「社分団」、「奥分団」、「山口馬瀬分団」は、昭和の時代から消防団を共同設置しています。複数の自治会が共同で組織を運営するためには、人手の確保や資機材の購入費用を共同で負担することになり、自治体を主体とした慎重な議論が必要となりますが、今回の検討では、前段の自治会による協議の前提となる最も望ましい編成案を検討することとします。

※ 資料P3からの一覧表で自治会名に灰色の着色された地区は、自衛消防団非組織の自治会。最右列の分団名に薄桃色の着色のある分団は、共同設置された自衛消防団です。

### 3 各分団における団員確保困難度の状況について

#### (1) 地区内状況における困難度の違い

消防団員を確保するためには、母体となる自治会の人口や世帯数が大きく影響を与えます。いうまでもなく、人口や世帯数が多ければ多いほど、分団員の確保の可能性が高くなり、少なければ分団員の確保が困難になります。人口増減率は、人口の減少傾向がどの程度進んでいるかを判断する目安となり、人口そのものが少ないうえこの率が高いと、分団どころか自治会そのものの運営が困窮する恐れが高まっていることを示しています。

団員の確保については、とりわけ、地区内の20～49歳の男性の人口が重要となり、この人数が少ないと団員の確保は、容易ではありません。

一方で、人口や世帯数、地区内の20～49歳の男性の人口が多くても、新規転入者などが多くて加入の勧誘に応じなければ、必要な団員数を確保することが困難になります。この問題については、団員の確保が困難という理由で統廃合の対象とするのではなく、まずは、自治会が新規住民の自治会活動の参加の呼びかけなどにより加入を促進していく必要があり、統廃合検討の対象からは除外すべきと考えられます。

ただし、隣接地域の団員確保困難から統廃合を行う場合も考えられます。

※ 資料P6～7参照 資料の地区内状況の欄で、赤く着色した数値は、深刻な数値、青く着色した数値は健全（比較的軽微な症状が軽い）な数値を相対的に着色しています。青く着色していれば安心という訳ではありません。

## (2) 分団運営困難度の状況について

団員名簿に基づく団員数に対し、一昨年に実施した調査結果に基づく実団員数（幽霊団員を除く実数）とその割合を示す実在籍率を比較しています。団員数及び実団員数は、加入による団員確保困難度の指標となりますが、実在籍率は分団が活動しやすいかどうかの活動環境に対する評価指標ですので、困難度の判定に反映することは適当ではありません。この数値が低い分団については、人口規模に係わらず、自治会との共同により実活動に資する人材の加入勧誘を進める必要があります。

「対対象加入率」は、地区内の20～49歳の男性の人口に対する実団員数の割合であり、この数値が高いと地区内に加入の対象となる人材が極めて少ない状況を示します。一方で「対世帯加入率」は、地区内の世帯数に対する実団員数の割合を示しており、「対対象加入率」が低いのに、「対世帯加入率」が高くて団員確保が困難になっている場合は、1世帯から複数の団員加入を検討する必要があります。

「平均年齢」、「最年長」、「最長勤続」の数値が高い状況は、消防団を卒業したくても新たな団員を確保できないため、辞められない状況が進んでいるバロメータであることは、いうまでもありません。

※ 資料P6からの分団運営困難度の欄で、赤く着色した数値は、深刻な数値、青く着色した数値は健全（比較的症状が軽い）な数値を相対的に着色しています。緑色は相対的に活動環境が良い数値、オレンジ色は、悪い数値を示しています。

## (3) 活動環境要素について

この欄に掲載された数値は、団員の確保困難度に直接影響しませんが、団員の市内在勤の割合が高く、被用者（雇用されている団員・サラリーマン）の割合が低ければ活動の自由度が高まります。各分団の状況について参考にしてください。

※ 資料P6からの活動環境要素の欄で、緑色は相対的に活動環境が良い数値、オレンジ色は、悪い数値を示しています。

## (4) その他の要素

再入団のある分団は、困窮度の高い可能性があります。（H26実績）

小隊	分団	人数
2	西垂水分団	1
3	梶原分団	1
3	上田分団	5
4	畑分団	2
5	奥分団	1

小隊	分団	人数
7	光明寺分団	2
9	黒谷分団	1
10	森分団	1
11	吉井分団	1
12	蔵谷分団	1

#### 4 分団統廃合案の検討について

##### (1) 統廃合検討の前提とする条件について

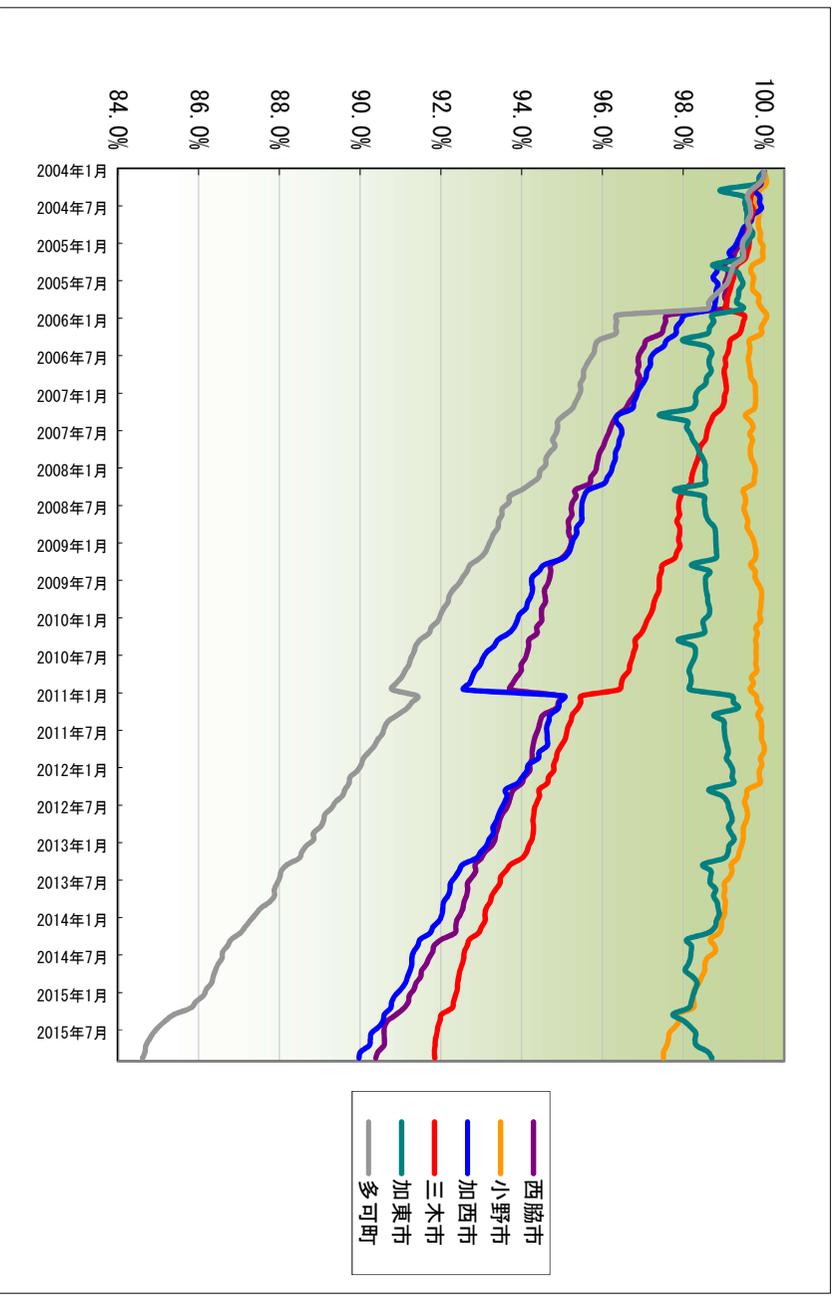
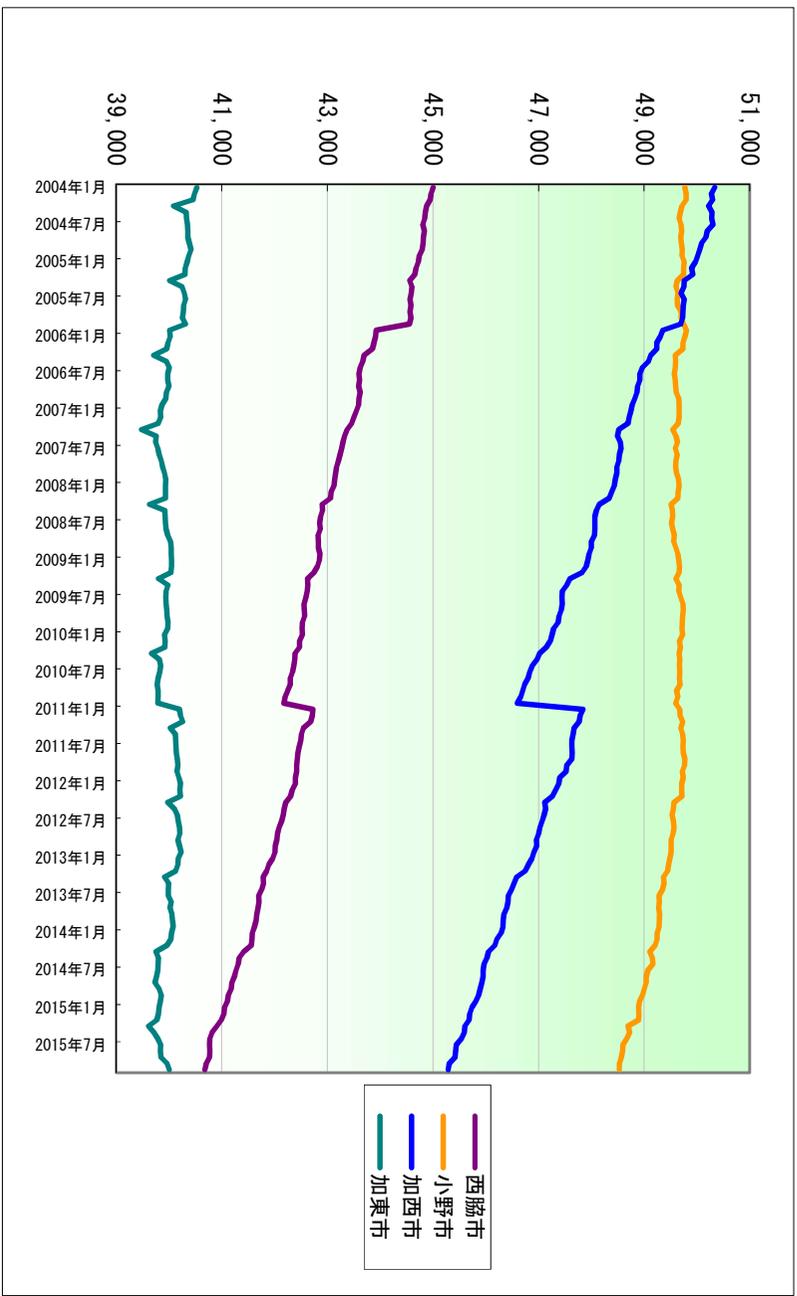
消防団の統廃合を検討するということは、今後の自治会組織の統廃合に進展する可能性があるため、慎重な議論を必要とすることから、案の作成については、以下の条件を考慮して検討を進めます。

- 「地区内状況」、「分団運営困難度」の状況から困難度が深刻化している分団を優先的、重点的に検討すること。
- 統廃合の対象となる複数の分団の属する自治会区域が隣接していること。
- 統廃合の対象となる複数の分団の属する自治会区域が、単に隣接しているだけでなく、山や川などに分断されていないこと。
- 統廃合の対象となる複数の分団の属する自治会区域が、同一の小中学校区に属していること。
- 統廃合の対象となる複数の分団の属する自治会同士が、過去の歴史などから関連性が高く、文化や行事を共有していること。
- 現在の状況では、相対的に深刻な状況を示していなくても、近い将来に状況の深刻化が予想される分団も対象に加えること。
- 地区内状況における各指標が、相対的に健全である分団については、地区内住民の加入促進を重点化し、統廃合の対象としないこと。ただし、「地区内状況」、「分団運営困難度」の状況から困難度が深刻化している分団が、相対的に健全である分団にしか隣接していない場合を除く。

#### 5 加東市消防団分団配置図（現行及び見直し案）

資料P10～P12

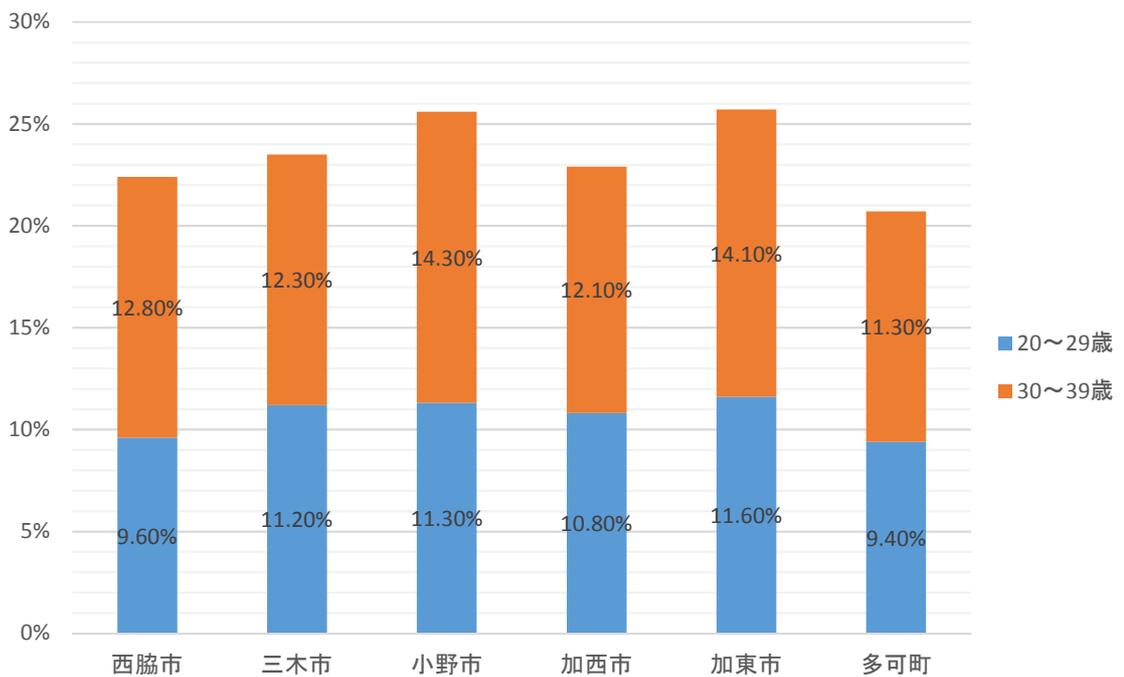
人口推移の状況(2004年から)隣接市限定



### 北播磨地区内での年代構成の比較



### 全人口のうち20歳～39歳の占める割合



# 加東市内自治会別人口・面積等一覧表

人口・世帯は9月末現在

100%以上 80以上100未満	120%以上 90以上120未満	20%未満 20以上35未満	20%以上 15以上20未満
80%未満	90%未満	35%以上	15%未満

深刻な数値	自衛消防団非組織の自治会
健全(比較的症状が軽い)	共同設置の自衛消防団

自治会名	人口				世帯数				65歳以上 人口比率	男性		区域 面積 (ha)	分団名
	(人)			増減 割合	(世帯)			増減 割合		20~49歳			
	H18	H25	増減		H18	H25	増減			人数(人)	人口比率		
社1区	850	819	△ 31	96.4%	330	353	23	107.0%	24.3%	167	19.9%	122.1	社
社2区	261	307	46	117.6%	95	141	46	148.4%	26.3%	73	23.1%		
社3区	839	800	△ 39	95.4%	328	338	10	103.0%	24.9%	173	20.9%		
社4区	2,056	1,911	△ 145	92.9%	740	814	74	110.0%	17.1%	352	19.1%		
社5区	446	479	33	107.4%	198	222	24	112.1%	18.5%	134	27.3%		
ひろのが丘	330	349	19	105.8%	110	126	16	114.5%	15.8%	66	18.9%	4.3	—
山国	1,427	1,533	106	107.4%	471	532	61	113.0%	19.8%	313	19.9%	531.4	山国
嬉野台団地	201	184	△ 17	91.5%	74	81	7	109.5%	19.6%	23	12.2%		—
兵庫教育大学 職員宿舎	222	192	△ 30	86.5%	108	105	△ 3	97.2%	1.0%	58	28.9%		—
松尾	241	204	△ 37	84.6%	75	79	4	105.3%	38.5%	32	15.6%	37.7	松尾
出水	297	257	△ 40	86.5%	84	83	△ 1	98.8%	33.3%	38	14.7%	64.3	出水
田中	196	183	△ 13	93.4%	52	57	5	109.6%	30.3%	24	13.5%	44.8	田中
鳥居	135	118	△ 17	87.4%	40	41	1	102.5%	34.5%	19	16.0%	33.5	鳥居
第1小隊計	7,501	7,336	△ 165	97.8%	2,705	2,972	267	109.9%	21.2%	1,472	19.9%	838.0	6分団
貝原	155	124	△ 31	80.0%	41	41	0	100.0%	33.1%	25	18.8%	34.2	貝原
野村	341	328	△ 13	96.2%	98	112	14	114.3%	29.8%	56	16.7%	77.3	野村
西垂水	109	106	△ 3	97.2%	33	37	4	112.1%	36.2%	14	13.3%	36.3	西垂水
窪田	429	347	△ 82	80.9%	167	147	△ 20	88.0%	31.5%	59	16.6%	19.2	窪田
家原	650	592	△ 58	91.1%	220	235	15	106.8%	24.9%	89	15.2%	75.1	家原
上中	843	970	127	115.1%	303	378	75	124.8%	15.4%	249	25.0%	83.8	上中
県住上中団地	178	210	32	118.0%	62	76	14	122.6%	8.1%	36	17.2%		—
梶原	569	600	31	105.4%	193	249	56	129.0%	16.2%	145	24.2%	32.2	梶原
県住梶原団地	182	170	△ 12	93.4%	68	69	1	101.5%	16.8%	32	17.9%		—
喜田	609	778	169	127.8%	236	321	85	136.0%	10.9%	195	25.5%	51.7	喜田
第2小隊計	4,065	4,225	160	103.9%	1,421	1,665	244	117.2%	19.2%	900	21.1%	409.6	8分団
沢部	349	308	△ 41	88.3%	102	105	3	102.9%	30.4%	48	15.7%	70.6	沢部
沢部雇用促進住宅	392	192	△ 200	49.0%	131	80	△ 51	61.1%	12.0%	41	21.5%		—
福吉	189	168	△ 21	88.9%	52	52	0	100.0%	28.8%	29	17.1%	41.6	福吉
上田	606	538	△ 68	88.8%	165	179	14	108.5%	31.8%	94	17.2%	88.4	上田
大門	311	291	△ 20	93.6%	110	110	0	100.0%	36.6%	45	15.8%	60.2	大門
西古瀬	368	321	△ 47	87.2%	104	109	5	104.8%	33.3%	46	14.2%	101.9	西古瀬
中古瀬	280	247	△ 33	88.2%	74	75	1	101.4%	25.5%	39	15.3%	62.6	中古瀬
東古瀬	430	400	△ 30	93.0%	125	135	10	108.0%	27.0%	70	17.2%	75.0	東古瀬
屋度	212	195	△ 17	92.0%	63	65	2	103.2%	29.8%	35	17.7%	101.6	屋度
東実	288	275	△ 13	95.5%	87	94	7	108.0%	33.8%	41	14.7%	84.6	東実
第3小隊計	3,425	2,935	△ 490	85.7%	1,013	1,004	△ 9	99.1%	29.7%	488	16.5%	686.3	9分団

# 加東市内自治会別人口・面積等一覧表

人口・世帯は9月末現在

100%以上  
80以上100未満  
80%未満

120%以上 20%未満  
90以上120未満 20以上35未満  
90%未満 35%以上

20%以上  
15以上20未満  
15%未満

深刻な数値

自衛消防団非組織の自治会

健全(比較的症状が軽い)

共同設置の自衛消防団

自治会名	人口				世帯数				65歳以上 人口比率	男性		区域 面積 (ha)	分団名
	(人)			増減 割合	(世帯)			増減 割合		20~49歳			
	H18	H25	増減		H18	H25	増減			人数(人)	人口比率		
畑	160	132	△ 28	82.5%	43	40	△ 3	93.0%	37.8%	16	11.9%	147.6	畑
廻淵	151	121	△ 30	80.1%	59	45	△ 14	76.3%	32.6%	23	17.4%	123.1	奥
池之内	82	62	△ 20	75.6%	22	22	0	100.0%	36.5%	7	11.1%	87.9	—
湖翠苑	144	128	△ 16	88.9%	66	65	△ 1	98.5%	37.5%	21	16.4%	349.3	上久米
上久米	393	338	△ 55	86.0%	117	118	1	100.9%	35.8%	65	18.6%	403.2	下久米
下久米	550	504	△ 46	91.6%	159	160	1	100.6%	31.6%	73	14.4%	223.0	久米
兵庫教育大学学生宿舎	431	349	△ 82	81.0%	390	317	△ 73	81.3%	0.0%	141	37.1%	1,334.0	5分団
久米	564	484	△ 80	85.8%	184	179	△ 5	97.3%	28.9%	75	15.0%	2,078.9	—
第4小隊計	2,475	2,118	△ 357	85.6%	1,040	946	△ 94	91.0%	27.1%	421	19.2%	76.1	上三草
上三草	499	434	△ 65	87.0%	151	154	3	102.0%	32.7%	60	13.8%	2,078.9	—
サン・コーポラス三草	178	88	△ 90	49.4%	56	26	△ 30	46.4%	0.0%	30	26.3%	2,078.9	—
やしろ台	77	74	△ 3	96.1%	38	35	△ 3	92.1%	56.2%	3	4.1%	76.1	下三草
下三草	282	269	△ 13	95.4%	85	91	6	107.1%	31.7%	40	14.4%	148.2	木梨
木梨	630	575	△ 55	91.3%	194	210	16	108.2%	25.2%	102	17.7%	206.8	藤田
藤田	458	357	△ 101	77.9%	160	139	△ 21	86.9%	34.1%	44	12.8%	40.6	—
藤田南	0	663	663	—	0	223	223	—	3.1%	151	24.4%	40.6	山口馬瀬
山口	81	65	△ 16	80.2%	25	20	△ 5	80.0%	31.1%	8	13.1%	209.3	山口馬瀬
馬瀬	100	87	△ 13	87.0%	30	29	△ 1	96.7%	40.4%	11	12.4%	171.1	牧野
牧野	245	235	△ 10	95.9%	62	68	6	109.7%	30.2%	23	9.9%	134.9	吉馬
吉馬	214	192	△ 22	89.7%	54	59	5	109.3%	22.4%	32	15.9%	3,065.9	7分団
第5小隊計	2,764	3,039	275	109.9%	855	1,054	199	123.3%	23.9%	504	16.7%	895.8	上鴨川
上鴨川	325	265	△ 60	81.5%	94	99	5	105.3%	32.2%	37	13.4%	201.0	下鴨川
下鴨川	128	121	△ 7	94.5%	33	39	6	118.2%	30.0%	21	17.5%	1,033.0	平木
平木	312	310	△ 2	99.4%	117	131	14	112.0%	29.3%	54	17.0%	2,129.8	3分団
第6小隊計	765	696	△ 69	91.0%	244	269	25	110.2%	30.6%	112	15.7%	77.9	光明寺
光明寺	186	168	△ 18	90.3%	55	55	0	100.0%	34.3%	23	13.1%	316.4	上滝野
上滝野	2,699	2,813	114	104.2%	950	1,109	159	116.7%	19.4%	584	20.8%	320.3	下滝野
下滝野	2,420	2,657	237	109.8%	917	1,127	210	122.9%	16.3%	626	23.5%	340.0	河高
河高	1,269	1,325	56	104.4%	373	438	65	117.4%	23.7%	252	18.6%	361.7	高岡
高岡	1,417	1,361	△ 56	96.0%	416	452	36	108.7%	27.1%	215	15.8%	82.4	曾我
桜台	320	305	△ 15	95.3%	188	193	5	102.7%	0.0%	159	50.6%	73.9	多井田
第7小隊計	8,311	8,629	318	103.8%	2,899	3,374	475	116.4%	19.9%	1,859	21.4%	1,416.2	5分団
新町	718	841	123	117.1%	270	348	78	128.9%	20.0%	183	21.6%	19.1	新町
北野	1,048	1,144	96	109.2%	358	439	81	122.6%	17.4%	232	21.0%	79.3	北野
滝野団地	194	28	△ 166	14.4%	72	15	△ 57	20.8%	9.4%	10	31.3%	66.3	穂積
穂積	311	273	△ 38	87.8%	82	82	0	100.0%	31.0%	36	13.0%	77.2	稲尾
稲尾	310	262	△ 48	84.5%	170	153	△ 17	90.0%	37.4%	39	14.0%	82.4	曾我
曾我	240	217	△ 23	90.4%	73	78	5	106.8%	31.3%	35	16.1%	73.9	多井田
多井田	583	688	105	118.0%	212	252	40	118.9%	18.1%	156	22.0%	398.2	6分団
第8小隊計	3,404	3,453	49	101.4%	1,237	1,367	130	110.5%	21.7%	691	19.9%		

# 加東市内自治会別人口・面積等一覧表

人口・世帯は9月末現在

100%以上  
80以上100未満  
80%未満

120%以上 20%未満  
90以上120未満 20以上35未満  
90%未満 35%以上

20%以上  
15以上20未満  
15%未満

深刻な数値

自衛消防団非組織の自治会

健全(比較的症状が軽い)

共同設置の自衛消防団

自治会名	人口				世帯数				65歳以上 人口比率	男性		区域 面積 (ha)	分団名
	(人)			増減 割合	(世帯)			増減 割合		20~49歳			
	H18	H25	増減		H18	H25	増減			人数(人)	人口比率		
黒谷	365	345	△ 20	94.5%	130	126	△ 4	96.9%	34.4%	51	14.7%	401.8	黒谷
古家	220	213	△ 7	96.8%	58	60	2	103.4%	29.3%	37	16.4%	581.4	古家
常田	140	130	△ 10	92.9%	40	37	△ 3	92.5%	22.9%	19	14.5%		常田
西戸	137	113	△ 24	82.5%	43	39	△ 4	90.7%	33.3%	21	14.0%		西戸
秋津台	141	147	6	104.3%	70	79	9	112.9%	36.2%	19	16.4%		—
少分谷	70	68	△ 2	97.1%	16	17	1	106.3%	32.4%	9	13.2%	166.7	少分谷
貞守	275	243	△ 32	88.4%	68	74	6	108.8%	28.5%	43	17.5%	312.3	貞守
長井	185	150	△ 35	81.1%	55	53	△ 2	96.4%	35.7%	15	9.7%		長井
第9小隊計	1,533	1,409	△ 124	91.9%	480	485	5	101.0%	31.6%	214	14.9%	1,462.2	7分団
天神	749	752	3	100.4%	256	284	28	110.9%	31.3%	124	16.9%	171.7	天神
掬鹿谷	212	193	△ 19	91.0%	61	65	4	106.6%	33.7%	31	15.8%	73.8	掬鹿谷
長谷	201	179	△ 22	89.1%	53	55	2	103.8%	24.9%	31	17.1%	376.3	長谷
黒石	145	129	△ 16	89.0%	36	41	5	113.9%	32.4%	27	19.9%		黒石
永福台	152	138	△ 14	90.8%	69	62	△ 7	89.9%	36.2%	19	14.6%		—
横谷	260	208	△ 52	80.0%	89	72	△ 17	80.9%	38.8%	29	13.9%		191.1
森	384	344	△ 40	89.6%	118	116	△ 2	98.3%	30.1%	54	15.2%	55.7	森
南山	330	1,126	796	341.2%	137	474	337	346.0%	5.2%	302	28.9%	158.1	—
第10小隊計	2,433	3,069	636	126.1%	819	1,169	350	142.7%	22.5%	617	20.7%	1,026.7	6分団
岡本	403	338	△ 65	83.9%	106	111	5	104.7%	39.4%	49	14.4%	149.9	岡本
岩屋	140	109	△ 31	77.9%	46	43	△ 3	93.5%	38.7%	16	14.4%	84.2	岩屋
森尾	290	101	△ 189	34.8%	100	42	△ 58	42.0%	22.2%	16	14.8%	14.6	森尾
新定	515	461	△ 54	89.5%	156	157	1	100.6%	38.6%	65	13.8%	675.8	新定
吉井	327	283	△ 44	86.5%	101	98	△ 3	97.0%	34.2%	39	13.9%	119.7	吉井
藪	198	175	△ 23	88.4%	60	62	2	103.3%	32.6%	24	13.5%	94.4	藪
第11小隊計	1,873	1,467	△ 406	78.3%	569	513	△ 56	90.2%	36.1%	209	14.0%	1,138.6	6分団
小沢	123	116	△ 7	94.3%	32	34	2	106.3%	32.8%	15	12.3%	61.1	小沢
栄枝	194	174	△ 20	89.7%	48	50	2	104.2%	31.8%	35	19.9%	165.4	栄枝
厚利	222	195	△ 27	87.8%	68	64	△ 4	94.1%	33.2%	29	14.6%	58.5	厚利
松沢	199	181	△ 18	91.0%	54	54	0	100.0%	36.3%	31	16.3%	190.7	松沢
依藤野	54	41	△ 13	75.9%	19	13	△ 6	68.4%	37.5%	6	15.0%		—
嬉野東	308	263	△ 45	85.4%	145	132	△ 13	91.0%	27.0%	42	15.3%		—
東垂水	139	136	△ 3	97.8%	38	44	6	115.8%	27.0%	16	11.7%		32.0
大畑	234	204	△ 30	87.2%	66	69	3	104.5%	34.0%	27	13.5%	306.2	大畑
蔵谷	155	130	△ 25	83.9%	36	35	△ 1	97.2%	34.8%	26	19.3%		蔵谷
第12小隊計	1,628	1,440	△ 188	88.5%	470	460	△ 11	97.9%	32.0%	227	15.4%	813.8	7分団
加東市合計	40,177	39,816	△ 361	99.1%	13,752	15,278	1,525	111.1%	23.5%	7,714	19.3%	14,719.3	75

## 分団別団員確保困難度比較一覧表

500人以上	200人以上	100%以上	200人以上	20人以上	100%	10%未満	10%未満	33歳未満	30歳代	15年未満	10人以上	60%以上	30%以上
200以上500未満	50以上200未満	85以上100未満	30以上200未満	10以上20未満	75以上100未満	10以上50未満	10以上25未満	33以上37未満	40歳代	15以上24未満	5以上10未満	30以上60未満	10以上30未満
200人未満	50人未満	85%未満	30人未満	10人未満	75%未満	50%以上	25%以上	37歳以上	50歳代	25年以上	5人未満	30%未満	10%未満

深刻な数値
相対的に活動環境が良い  
健全(比較的的症状が軽い)
相対的に活動環境が悪い

分団名 項目	地区内状況				分団運営困難度								活動環境要素			
	人口 (人)	世帯数 (世帯)	人口 増減率	男性 20~49歳 人数(人)	団員数 (人)	実団員 (人)	実在籍 率	対対象 加入率 F/D	対世帯 加入率 F/B	平均 年齢 (歳)	最年長 (歳)	最長 勤続 (年)	市内 在勤 (人)	市内 在勤 割合	被用者 以外 (人)	被用者 以外 割合
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P
社	4,316	1,868	96.9%	899	39	25	64.1%	2.8%	1.3%	33.6	43	22	14	56.0%	8	32.0%
山国	1,533	532	107.4%	313	19	18	94.7%	5.8%	3.4%	32.0	39	16	9	50.0%	4	22.2%
松尾	204	79	84.6%	32	12	11	91.7%	34.4%	13.9%	38.1	49	22	7	63.6%	1	9.1%
出水	257	83	86.5%	38	12	11	91.7%	28.9%	13.3%	36.8	42	19	6	54.5%	3	27.3%
田中	183	57	93.4%	24	14	12	85.7%	50.0%	21.1%	35.9	44	24	4	33.3%	1	8.3%
鳥居	118	41	87.4%	19	12	10	83.3%	52.6%	24.4%	35.6	44	25	6	60.0%	2	20.0%
貝原	124	41	80.0%	25	11	11	100.0%	44.0%	26.8%	36.0	46	25	8	72.7%	4	36.4%
野村	328	112	96.2%	56	17	17	100.0%	30.4%	15.2%	35.8	40	17	7	41.2%	1	5.9%
西垂水	106	37	97.2%	14	6	6	100.0%	42.9%	16.2%	43.2	51	21	1	16.7%	0	0.0%
窪田	347	147	80.9%	59	12	9	75.0%	15.3%	6.1%	33.8	44	12	5	55.6%	2	22.2%
家原	592	235	91.1%	89	18	18	100.0%	20.2%	7.7%	35.3	47	26	8	44.4%	1	5.6%
上中	970	378	115.1%	249	17	17	100.0%	6.8%	4.5%	32.8	38	11	7	41.2%	2	11.8%
梶原	600	249	105.4%	145	17	16	94.1%	11.0%	6.4%	36.2	46	24	5	31.3%	1	6.3%
喜田	778	321	127.8%	195	12	10	83.3%	5.1%	3.1%	36.1	42	22	6	60.0%	2	20.0%
沢部	308	105	88.3%	48	15	13	86.7%	27.1%	12.4%	33.7	43	20	5	38.5%	4	30.8%
福吉	168	52	88.9%	29	15	14	93.3%	48.3%	26.9%	34.5	44	19	8	57.1%	1	7.1%
上田	538	179	88.8%	94	26	26	100.0%	27.7%	14.5%	33.1	44	22	18	69.2%	5	19.2%
大門	291	110	93.6%	45	17	10	58.8%	22.2%	9.1%	36.2	43	19	6	60.0%	8	80.0%
西古瀬	321	109	87.2%	46	14	14	100.0%	30.4%	12.8%	33.9	39	17	5	35.7%	2	14.3%
中古瀬	247	75	88.2%	39	15	15	100.0%	38.5%	20.0%	31.6	39	19	6	40.0%	0	0.0%
東古瀬	400	135	93.0%	70	20	18	90.0%	25.7%	13.3%	32.6	42	17	10	55.6%	4	22.2%
屋度	195	65	92.0%	35	18	15	83.3%	42.9%	23.1%	33.7	42	19	6	40.0%	3	20.0%
東実	275	94	95.5%	41	14	14	100.0%	34.1%	14.9%	35.4	42	19	7	50.0%	4	28.6%
畑	132	40	82.5%	16	10	10	100.0%	62.5%	25.0%	40.7	49	29	5	50.0%	1	10.0%
奥	183	67	78.5%	30	14	14	100.0%	46.7%	20.9%	39.7	49	27	3	21.4%	0	0.0%
上久米	338	118	86.0%	65	23	23	100.0%	35.4%	19.5%	34.6	44	22	11	47.8%	3	13.0%
下久米	504	160	91.6%	73	19	19	100.0%	26.0%	11.9%	30.6	37	9	11	57.9%	1	5.3%
久米	484	179	85.8%	75	19	16	84.2%	21.3%	8.9%	32.4	38	17	6	37.5%	3	18.8%
上三草	434	154	87.0%	60	16	16	100.0%	26.7%	10.4%	32.2	39	16	8	50.0%	4	25.0%
下三草	269	91	95.4%	40	13	13	100.0%	32.5%	14.3%	35.0	49	14	5	38.5%	3	23.1%
木梨	575	210	91.3%	102	18	18	100.0%	17.6%	8.6%	31.3	40	12	10	55.6%	3	16.7%
藤田	357	139	77.9%	44	14	14	100.0%	31.8%	10.1%	37.6	45	17	7	50.0%	2	14.3%
山口馬瀬	152	49	84.0%	19	9	9	100.0%	47.4%	18.4%	33.0	42	20	2	22.2%	0	0.0%
牧野	235	68	95.9%	23	15	15	100.0%	65.2%	22.1%	34.9	40	15	10	66.7%	4	26.7%
吉馬	192	59	89.7%	32	14	14	100.0%	43.8%	23.7%	32.1	39	18	9	64.3%	2	14.3%
上鴨川	265	99	81.5%	37	15	14	93.3%	37.8%	14.1%	34.9	42	17	9	64.3%	1	7.1%
下鴨川	121	39	94.5%	21	13	13	100.0%	61.9%	33.3%	44.2	54	32	7	53.8%	1	7.7%
平木	310	131	99.4%	54	16	14	87.5%	25.9%	10.7%	36.5	49	20	8	57.1%	3	21.4%

## 分団別団員確保困難度比較一覧表

500人以上	200人以上	100%以上	200人以上	20人以上	100%	10%未満	10%未満	33歳未満	30歳代	15年未満	10人以上	60%以上	30%以上
200以上500未満	50以上200未満	85以上100未満	30以上200未満	10以上20未満	75以上100未満	10以上50未満	10以上25未満	33以上37未満	40歳代	15以上24未満	5以上10未満	30以上60未満	10以上30未満
200人未満	50人未満	85%未満	30人未満	10人未満	75%未満	50%以上	25%以上	37歳以上	50歳代	25年以上	5人未満	30%未満	10%未満

深刻な数値

相対的に活動環境が良い

健全(比較的症状が軽い)

相対的に活動環境が悪い

分団名 項目	地区内状況				分団運営困難度									活動環境要素			
	人口	世帯数	人口	男性	団員数	実団員	実在籍率	対対象	対世帯	平均	最年長	最長	市内	市内	被用者	被用者	
	(人)	(世帯)	増減率	20~49歳 人数(人)	(人)	(人)	(%)	加入率 F/D	加入率 F/B	年齢 (歳)	(歳)	(年)	在勤 (人)	在勤 割合	以外 (人)	以外 割合	
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P		
光明寺	168	55	90.3%	23	14	14	100.0%	60.9%	25.5%	37.6	46	26	5	35.7%	3	21.4%	
上滝野	2,813	1,109	104.2%	584	27	24	88.9%	4.1%	2.2%	30.7	39	17	12	50.0%	4	16.7%	
下滝野	2,657	1,127	109.8%	626	22	19	86.4%	3.0%	1.7%	34.5	42	18	11	57.9%	4	21.1%	
河高	1,325	438	104.4%	252	25	24	96.0%	9.5%	5.5%	33.6	39	14	18	75.0%	8	33.3%	
高岡	1,361	452	96.0%	215	30	26	86.7%	12.1%	5.8%	32.6	39	18	10	38.5%	2	7.7%	
新町	841	348	117.1%	183	20	19	95.0%	10.4%	5.5%	32.1	38	17	10	52.6%	3	15.8%	
北野	1,144	439	109.2%	232	20	13	65.0%	5.6%	3.0%	33.0	43	21	6	46.2%	1	7.7%	
穂積	273	82	87.8%	36	12	11	91.7%	30.6%	13.4%	32.4	42	19	6	54.5%	1	9.1%	
稲尾	262	153	84.5%	39	15	13	86.7%	33.3%	8.5%	32.0	42	16	5	38.5%	1	7.7%	
曾我	217	78	90.4%	35	14	13	92.9%	37.1%	16.7%	33.7	39	16	6	46.2%	3	23.1%	
多井田	688	252	118.0%	156	15	15	100.0%	9.6%	6.0%	30.7	39	16	12	80.0%	4	26.7%	
黒谷	345	126	94.5%	51	17	17	100.0%	33.3%	13.5%	36.8	44	22	4	23.5%	0	0.0%	
古家	213	60	96.8%	37	13	13	100.0%	35.1%	21.7%	35.5	42	18	6	46.2%	2	15.4%	
常田	130	37	92.9%	19	15	15	100.0%	78.9%	40.5%	40.5	53	32	6	40.0%	0	0.0%	
西戸	113	39	82.5%	21	10	10	100.0%	47.6%	25.6%	39.0	51	31	7	70.0%	1	10.0%	
少分谷	68	17	97.1%	9	7	6	85.7%	66.7%	35.3%	38.6	48	19	3	50.0%	1	16.7%	
貞守	243	74	88.4%	43	18	11	61.1%	25.6%	14.9%	38.1	42	19	3	27.3%	1	9.1%	
長井	150	53	81.1%	15	12	11	91.7%	73.3%	20.8%	43.0	51	29	4	36.4%	0	0.0%	
天神	752	284	100.4%	124	20	19	95.0%	15.3%	6.7%	36.0	45	17	10	52.6%	5	26.3%	
掬鹿谷	193	65	91.0%	31	12	12	100.0%	38.7%	18.5%	33.3	39	17	6	50.0%	2	16.7%	
長谷	179	55	89.1%	31	17	15	88.2%	48.4%	27.3%	38.9	47	22	7	46.7%	2	13.3%	
黒石	129	41	89.0%	27	14	14	100.0%	51.9%	34.1%	34.5	43	23	7	50.0%	1	7.1%	
横谷	208	72	80.0%	29	15	14	93.3%	48.3%	19.4%	36.8	48	23	7	50.0%	2	14.3%	
森	344	116	89.6%	54	17	16	94.1%	29.6%	13.8%	33.4	44	23	9	56.3%	2	12.5%	
岡本	338	111	83.9%	49	18	18	100.0%	36.7%	16.2%	33.3	42	21	5	27.8%	4	22.2%	
岩屋	109	43	77.9%	16	12	12	100.0%	75.0%	27.9%	37.1	44	23	6	50.0%	3	25.0%	
森尾	101	42	34.8%	16	12	11	91.7%	68.8%	26.2%	38.6	52	28	8	72.7%	2	18.2%	
新定	461	157	89.5%	65	30	26	86.7%	40.0%	16.6%	37.2	45	25	16	61.5%	8	30.8%	
吉井	283	98	86.5%	39	20	20	100.0%	51.3%	20.4%	34.8	43	20	14	70.0%	3	15.0%	
藪	175	62	88.4%	24	16	15	93.8%	62.5%	24.2%	36.1	44	25	0	0.0%	2	13.3%	
小沢	116	34	94.3%	15	13	10	76.9%	66.7%	29.4%	37.8	51	29	4	40.0%	1	10.0%	
栄枝	174	50	89.7%	35	14	12	85.7%	34.3%	24.0%	35.1	41	17	6	50.0%	2	16.7%	
厚利	195	64	87.8%	29	14	14	100.0%	48.3%	21.9%	39.2	48	21	9	64.3%	6	42.9%	
松沢	181	54	91.0%	31	17	17	100.0%	54.8%	31.5%	39.5	49	24	9	52.9%	1	5.9%	
東垂水	136	44	97.8%	16	12	11	91.7%	68.8%	25.0%	39.2	54	29	2	18.2%	0	0.0%	
大畑	204	69	87.2%	27	14	13	92.9%	48.1%	18.8%	39.4	48	23	10	76.9%	2	15.4%	
蔵谷	130	35	83.9%	26	11	11	100.0%	42.3%	31.4%	36.2	46	19	5	45.5%	2	18.2%	

(1) 旧社町

		明治22年4月1日	明治45年6月1日	昭和30年3月31日	昭和31年4月1日
	社 村	社 村	社 町		
	山国村				
	松尾村				
	出水村				
	田中村				
	鳥居村				
	貝原村				
	野村村				
垂水村	西垂水村 (明治元年)				
	窪田村				
	家原村	社 町			
中 村	上中村 (明治元年)				
	梶原村				
	喜田村				
	沢部村				
	福吉村				
	上田村				
	大門村				
	西古瀬村				
	中古瀬村				
	東古瀬村	福田村			
	屋度村				
	東実村				
	古川村				
	久保木村				
	畑 村				
	廻 瀨 村				
	池之内村				
	上久米村				
	下久米村				
	久米村	米 田 村			
	上三草村				
	三 草 村				
	下三草村				
	木 梨 村				
	藤 田 村				
	山 口 村				
	馬 瀬 村				
吉馬村	永富村 (明治4年)				
牧野村					上福田村
	上鴨川村				
	下鴨川村				
	平木村	鴨川村			
				小野市へ	

(2) 旧滝野町

		明治22年4月1日	大正14年4月1日	昭和29年3月31日
青野原新田	光明寺村	滝野村	滝野町	滝野町
	上滝野村			
	下滝野村			
	河高村			
	高岡村 (明治元年)			
蜷子野新田	新町村	加茂村		
	北野村			
	穂積村			
稲尾村 (明治4年)				
曾我村				
多井田村				

(3) 旧東条町

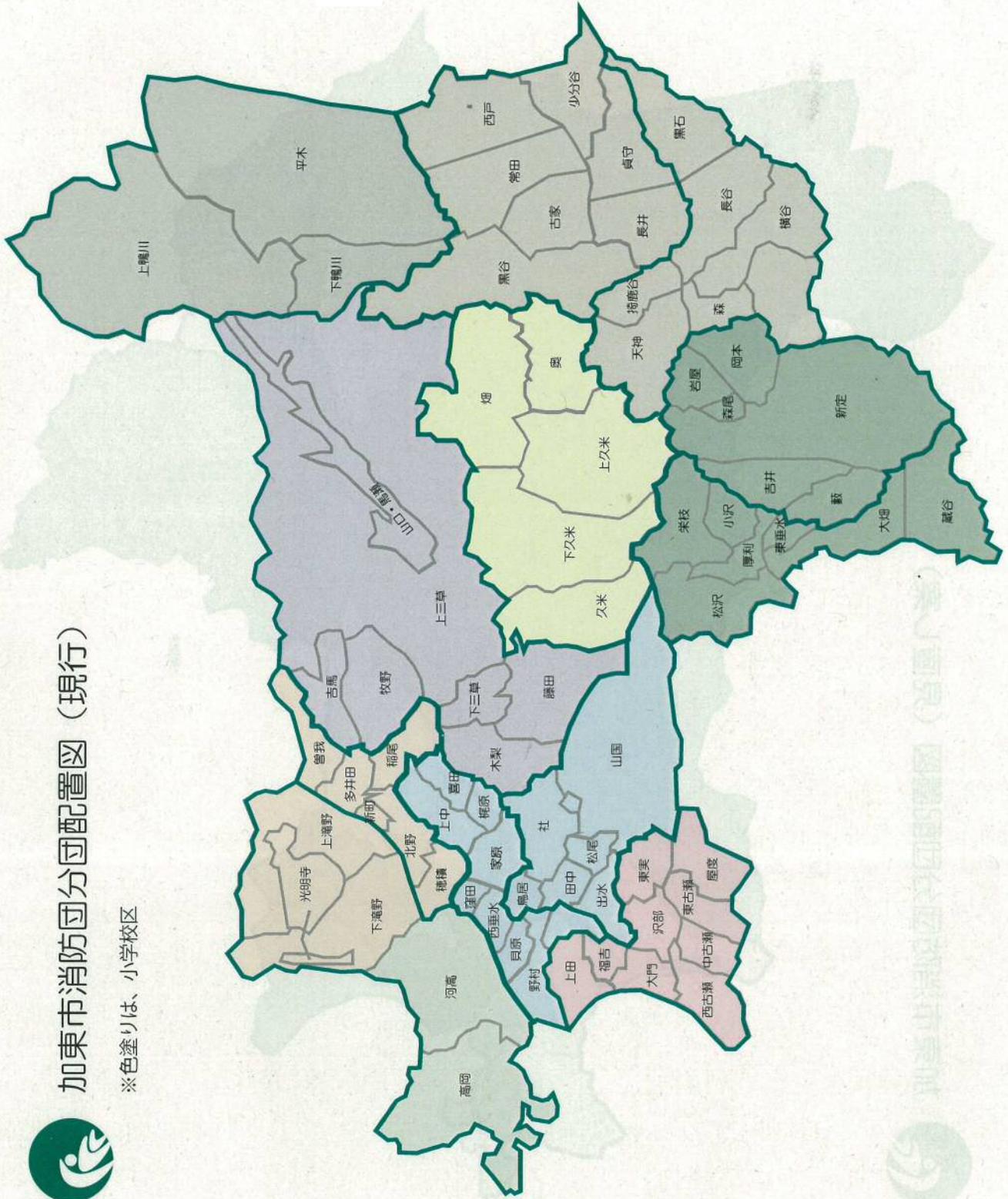
		明治22年4月1日	昭和30年3月31日
天神町 天神谷村	天神村 (明治10年)	上東条村	東条町
	倚鹿谷村		
黒谷村 土井村	黒谷村 (明治10年)		
	古家村 常田村 西戸村		
少分谷村			
貞守村 長井村			
	長谷村 黒石村		
横谷村			
森村			
念仏村 総持院村	岡本村 (明治10年)		
	岩屋村		
新定村 安国寺村	森尾村		
	新定村 (明治元年)		
東小沢村 西小沢村	吉井村		
	小沢村 (明治8年)		
国依村 神谷村	栄枝村 (明治6年)		
	厚利村		
垂水村	松沢村		
	東垂水村 (明治元年)		
土沢村 蔵谷村	東垂水村 (明治元年)		
	大畑村 (明治8年)		
	藪村		

※ 資料：加東郡誌、社町史、滝野町史、東条町史



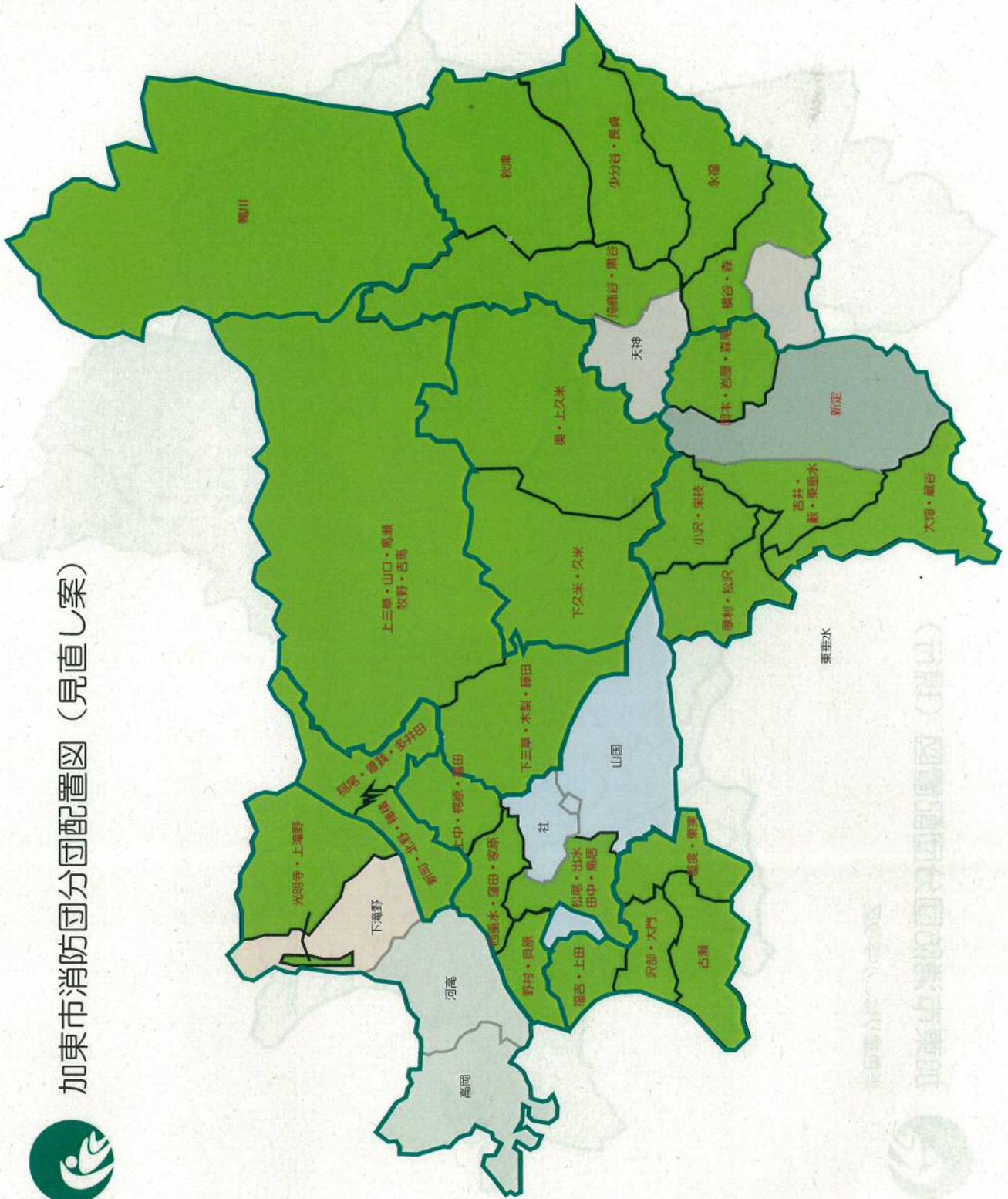
# 加東市消防団分団配置図（現行）

※色塗りは、小学校区

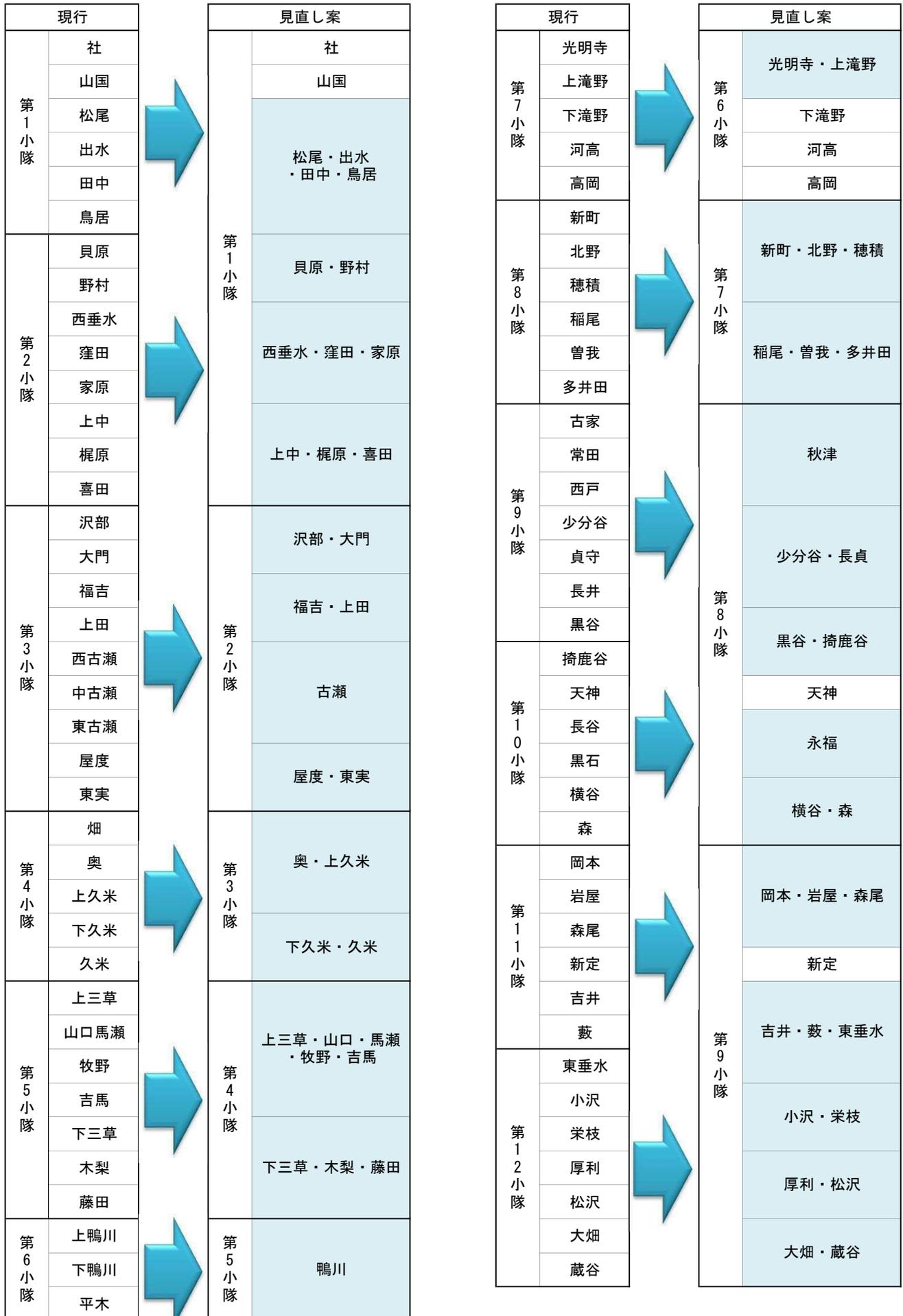




加東市消防団分団配置図（見直し案）



## 加東市消防団 分団再編成案



## 加東市消防団のあり方検討委員会まとめ(第1回～第3回)

- 1 加東市内の防災体制の現状と消防団の必要性について
  - ・以前は新入団の確保について、大きな支障はなかったが、近年それらが困難になっている。負担の原因は、新入団員の確保、操法大会、年末警戒、土日の行事など。
  - ・消防団員は、地区の村付き合いの入口となり、地域に根ざしていたが、今の若い年代層はそれらを負担と考えている。
  - ・少子高齢化、若者のサラリーマン化、遠距離通勤、ライフスタイルの変化は時代の流れで、一朝一夕に解決できる問題ではない。常備消防・非常備消防・自主防災組織の三位一体で連携をとることが大事である。
  - ・「私の家は有事の際、消防署に消火してもらうので団に入る必要がない。」等の理由により勧誘時、親の判断で断られたケースも多く、「加東消防署があるのに、なぜ消防団入団が必要なの？」と思っている人が多い。
  - ・消防署においても、交替勤務体制で、火災、多くの救急対応があり、一たび出動すると待機の人員が少なく、有事の際は消防団の力は大きな力となり、必要不可欠な存在である。
  - ・操法、各種訓練、団員同士・地区の付き合い等など、消防団活動の中身・組織が見えなく、しんどいだけという印象を持っている。
  - ・親の理解不足や、学校での消防団の詳しい教育がされていない。消防団の必要性、仕事内容などは、地道な啓蒙活動が必要である。
  - ・現在の消防団の現状、活動内容などもっとPR、啓蒙啓発をする必要がある事を感じた。

### 2-1 消防団の周知、啓蒙啓発について

#### (1) 周知啓蒙啓発方法について

- ① 広報かとうへの掲載
- ② イベントでの啓発
  - (ア) 加東市秋のフェスティバル
  - (イ) 加東市総合防災訓練及び学校・自主防災組織合同防災訓練
- ③ 消防団行事での啓発
  - (ア) 出初式
  - (イ) 操法大会
- ④ 学校教育での啓発
- ⑤ 加東市ケーブルテレビジョン
- ⑥ 成人式でのPR

- ・周知、啓蒙啓発は興味を引くようなインパクトのある表現方法で啓発することが重要。
- ・消防団は、災害が発生した直後は注目されるが、それ以外だと関心を持たれにくいため、常に興味を持ってもらうかが課題。
- ・地域からの人員募集だけでなく、企業等にも依頼しては。
- ・今までのPR方法では、過去と同じ様に流れる可能性が高く、うまくPRが出来ていない。

手段として紙媒体や映像などを活用することだけでなく、地域住民と消防団とのコミュニケーションを図り、消防団の活動を理解してもらうということも大事。

- 地域との交流は、壮年と若年とでは差があり、時代の流れでもある。有事の際は、使命として活動に向かうが、それが「押し付け」になると若年団員には負担になるのでは。本来、啓蒙啓発はいい事ばかりを並べても意味がない。現状が把握出来ていないと、本当の啓発にはならない。
- いい事ばかりではなく、現状を踏まえた上で日々の積み重ねを伝えることが重要である。地域としてのバックアップ方法、消防団の地域密着性なども訴えるべき。
- 若者の親にもっとPRすべき。消防団の活動内容や、地域の消防団の必要性などを改めて認識してもらいたい。学校等にももっと理解してもらうべき。市民の消防団の認識と現状が一致していない。
- 操法大会を一般の人の見学場所などを設けるなどで活動を周知できなかつた。
- 今年の操法大会から一般観覧席を設けていたが、あまり周知が出来ていなかったため利用者が少なかった。
- 過去に1度だが、他市の消防団が小学校の運動会で操法を行った事がある。
- 加東市も旧町時代に小学校で操法大会を行っていたことがある。
- 操法大会を観覧してもらえば動きもキビキビしていて規律正しい演技を見てもらう事を知ってもらえる良い機会になる。
- 今の若者が紙媒体でのPRで入団したいと思うのか。多少強制力を持たせてでも入団してもらい、活動を行う中で「やり甲斐」を見出してもらうことの方が重要ではないのか。私も強制で入団したが、今は「やり甲斐」「自分の地域は自分が守る」などの使命感を感じている。紙や映像媒体で入団したいと思う若者がいるかは疑問である。
- 幼少期から団活動について知ってもらい馴染んでもらう事が大切と思う。
- 私の地区は祭りなどの地域行事にも参加しており、父親が団活動に参加していたため、「いずれは自分も」と思った。幼少期から団活動に馴染んでおくことは重要だ。
- 分団に入団しにくい理由で、勤務先など企業の協力や理解を得るのが難しい。
- 地元企業はある程度協力的だが、遠方、都市化が進んだ地区の企業が協力的とは言いがたい。入団は強制的ではなく、相手の生活スタイルに沿う形で勧誘しており、操法大会の練習時間も、相手の勤務時間を考慮した時間帯に合わせている。企業どうこうではなく、地域住民の意識を変えていく事の方が重要だと思う。
- 職場の現役消防団員に尋ねると、「しんどい、大変。」のマイナス言葉だったため、やる気になれない。前向きな言葉で伝えないと、魅力を感じて入団したいと思わない。
- 正直「しんどい」と思うが、裏腹に「誇り」という思いが勝っていたのは昔で、今は「誇り」が継承されず、「しんどい」だけが表に出がちだが、本質は「しんどさ」の対価は「誇り」である。
- 女性消防団について考えてみてはどうか。
- ある地区は、漁業が盛んで男性は漁師が多く昼間は殆どいない。このため火災が起きると女性が消防団として地域を守っている。凄いことだが、地域の事情もあり誰もが出来る訳ではない。でも、女性が集まる場所は活気づいているので、そういう場も活用してみてはどうか。

- ・女性団員は家事、育児とのバランスがあるため、1年間のお試し期間を設ける方法を取り、1年後に入団の判断をする制度を試してみてもいい。
- ・若手消防団員は、地元の同世代の人達との交流・意見交換が出来たりすることが最大のメリットでは。
- ・経験をしてみないと分からない事もあると思うので、1年間の体験入団制度を設けてみてはどうか。
- ・入団して初めて分かる事が沢山あると思うので、「体験入団」は良い案だと思う。イメージで入団を拒まれるより、体験した上で、「続ける」「辞める」の判断をすればいいのでは。1年後の志で決めれば良いと思う。
- ・あるアンケート調査で、入団の敬遠理由に「体力」「仕事との両立」「危険な活動」という結果が出ており、消防団員に聞いたところ、「大きい車の運転に不馴れで怖い」「水防活動の危険性」「警ら活動や避難活動が危険性で不安」「火災現場が不安」「AT限定の自動車免許のため」などの声があった。  
不安事案は様々だが「1年間体験入団」で不安要素が緩和されれば、入団を検討しやすくなるのではないかと。「入ったからには！」といった態度では改革できない。
- ・「教育訓練が団員の負担になる」という理由で密度の濃い訓練が出来なく、敬礼もできない団員が分団長になっている。団員の資質向上と、負担軽減は相反し難しい。
- ・理想と現状では様々な矛盾点が発生するので、短時間で充実した教育訓練を行えるよう、工夫するべきである。
- ・体育祭に操法大会を組み込んで。
- ・自然学習で、地元の小学生と消防団が触れ合う交流をしてみてもいい。
- ・地区の消防団員と地元地区の子供達を集めて、コミュニケーションなどを行うと、同じ集落の住民として更に親近感がわいていいのではないかと。

## 2-2 消防団の団員確保対策について

### (1) 市内の企業に対して入団促進協力依頼を行う。

- ・企業にも、加東市在中の社員が少ないのが現状。他市町からの通勤者に入団を勧めるのは難しいのではないかと。
- ・市役所や県の職員に率先して入団してもらってはどうか。

### (2) 社会貢献事業所の表彰。

### (3) 消防団員優秀家族賞表彰

- ・消防団員の家族への感謝状については、表彰状より金一封の方が良い
- ・加西市では以前から10年以上の家族表彰をおこなっている。賞状と共に普段使えるグッズももらえた。

### (4) 福利厚生施設の優遇

- ・この制度を利用して大勢で入店すると、店側の負担が大きいのではないかと？
- ・西脇市では既に取組を行っており、店舗によっては5%割引を提示しているところもある。
- ・店側の負担増という意見があったが、店側は客寄せサービス提供を行うと推測される。この取組が広がり、業種を問わず様々な店舗での利用が可能になれば相乗効果が生まれるの

では？飲食店に限らず、家族でも利用できるような店舗選定であると、より効果が大い  
と思う。

- ・応援事業所が一目でわかるステッカーなどがあれば、市を挙げて取り組んでいることがわか  
り効果が大きくなるのではないのか？
- ・市で行っている「サンサンチャレンジ」のように、市も協賛していることをうたった取り組  
み方を行えば？
- ・ある程度の規模の協賛店が必要になり、業種が偏らないような配慮も必要。
- ・行政が力添えを行い、協賛店に負担がかからないように配慮を行う必要あり。業種の選定も  
慎重に。

#### (5) 女性の入団推奨

- ・現在、加東市には女性団員はいないが、消防団として必要と思っているのか。
- ・女性団員が在籍している近隣の市町の活動状況は、後方支援ではなく消防団活動に従事して  
いる。救命救急講習など、女性ならではの目線を活かした活動などを行っていければ一番か  
と思うが。
- ・近隣市町では、三木市は緑ヶ丘地区、小野市は育が丘地区に女性団員がいる。
- ・在宅女性で消防団に興味がある方に「多くの人が勤めに出ている日中は私達が地域を守る。」  
という意識の元に集まってもらえれば理想的であるが。
- ・女性の意見としては、育児・介護など様々な家事がある中で、それ以外の事に割ける時間が  
あるのか、正直難しいと思う。何かメリットがないと入団は難しいのでは。
- ・とりあえず、一度、試みしてみるのも良いのではないか。

#### (6) 若者や学生の入団推奨

- ・学校によっては消防団に入団すれば単位がもらえるところもある。
- ・周辺の学校では三木市の大学で学校消防隊を結成している。早い時期から団員ともコミュニ  
ケーションを図れる事や、消防団への抵抗がないというメリットがある。
- ・加東市に協力してもらえる、企画案などは考えられないか。
- ・学生の中で興味を抱いている方が居れば提案をしていければいい。消火器やAEDの使用  
方法など身近なことから入り、先に、消防団活動に繋げていければいいのではないか。
- ・学校にも専門の先生がいると思うので、市から学校側にアプローチをすれば授業として取扱  
ってもらえないか。授業となれば単位がもらえるので、興味の有無に関係なく受講してもら  
える。講義を受ける中で興味を示す生徒も出てくるかもしれない。
- ・今回の提案を意見としてだけで終わらせる事なく、アクションを起こしていくべきかと思  
うので、一度学校側に接触してみることは。

#### (7) 加東市内転入者への入団促進

- ・転入者に啓発案内を渡すだけなので難なく行えると思うが、年齢層などある程度ターゲッ  
トを絞る必要があると思う。入団に適正な年齢の転入者に、転入の説明時に窓口でパンフレッ  
トを渡してもらってはどうか？
- ・転入者が転入できる地域は、転入先の居住地の関係である程度決まってしまうように思う。